平成２３年６月１５日
株式会社富士通研究所
津田　俊隆

重点分野についての考え方

今までの議論に参加して、重点分野の選定について考えをまとめてみました。

１．基本認識

- 国としての技術開発の方向付けとして、“グリーンイノベーション”“ライフイノベーション”が採りあげられている。
- 日本の国力増進のためには、ＩＣＴの利活用推進が必要。
- 大震災の復興のために大きな出費が必要であり、将来に向けた投資も厳選して行う必要がある。
- このＷＧとしては、政府が中長期的に支援に取り組むべき分野を、理由を明らかにして選定することが求められている。

２．選択の視点

（政府が支援すべき分野）

- 民間が主体的に推進できる分野はそちらにまかせるとして、社会インフラに関わる分野は国の方針に依存する分野である。従って、デジュール標準化は投票権が国単位になっている場合が多く、引き続き政府の支援・関与が必須である。
- 政府が支援することにより、国内の産業界に対する一つの方向付けができ、国内産業の振興に役立つ分野。

（中長期視点での分野）

- 現状の技術をみるのではなく、今後の社会を考えた時のネットワークのあり方そのものを議論する標準化。
- またそれを実現するために技術イノベーションが求められる分野。
- 早期に取り組みを行うことで、標準化のイニシアチブを取れるチャンスが広がり、日本のインフラ構想がガラパゴス化することを回避する必要がある分野。

３．選択を推薦したい分野と理由

（新世代ネットワーク）

- 社会インフラに関する分野である。
- 今後ＩＣＴの利活用が進むと、益々高速・大容量化の要求が増える。この要求

をネットワークのグリーン化と合わせて実現するためには、新しいネットワーク構造が必要になる。

- 様々なサービスを効率的・求められる品質で提供する、また今回の震災で問題が見えた災害時での基本通信サービス提供のためには、現在の固定的なネットワークから、柔軟に姿を変えるネットワークへと移る必要がある。
- 以上を実現するためには、多くのイノベーションが必要となる。
- デジュール標準の場でも議論が始まろうとしており、イニシアチブがとれる段階である。

（次世代ワイアレス；特に M to M 着目して）

- “グリーンイノベーション”“ライフイノベーション”を進めるための一つの要素として、時々刻々状況を把握することがある。M to M 通信はこのための基本技術であり、センサーネットワークはその代表である。
- この分野は、多くの技術が求められ、関連産業も多い。従って、政府が方向付を行うことにより産業界の足並みがそろい、国内産業振興に役立つ。
- 世界で標準が決まれば、多くの部品が自由に使えるようになり、ユーザーも低コストを享受できる。
- 色々な標準化が始まっており、中期視点ではあるが少し急ぐ必要がある。

以上